

テニユア・トラックに関するアンケート調査

金沢大学のテニユア・トラック制度に関する教員の理解・周知状況、さらに制度として定着するために何が必要かを知るために、全額の教員および研究員を対象としたアンケート調査を行いました。ここでは調査結果をお知らせします。

制度に対する率直な意見が多数寄せられました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

期 間：2009年11月13日～24日

対 象：全学の教員（研究員含む）

方 法：電子メールによる送信と電子メールによる回答

回答はエクセルファイルに入力の上、添付ファイルとして返送

回答数：76（うち、有効回答 75）

回答率：7.1 %

	設問	選択肢	回答数	(%)
Q1	所属	1. 人間社会研究域	2	0.8
		2. 理工研究域	26	9.5
		3. 医薬保健研究域	26	9.4
		4. 研究所・センター等	18	13.5
		5. 附属病院	3	2.3
Q2	職位	1. 教授	33	8.4
		2. 准教授	12	4.3
		3. 講師	4	4.5
		4. 助教	22	9.2
		5. 助手	0	0
		6. PD	4	8.2
Q3	年代	1. 20代	5	-
		2. 30代前半	8	-
		3. 30代後半	13	-
		4. 40代	24	-
		5. 50代	20	-
		6. 60代	8	-
Q4	テニユア・トラック制度（概要）をご存知ですか？	1. 知っている 2. 知らない	65 10	86.7 13.3
Q5	金沢大学でテニユア・トラック制度が導入されていることをご存知ですか？	1. 知っている 2. 知らない	61 14	81.3 18.7
Q6	金沢大学にテニユア・トラック制度が導入されていることをどのように知りましたか？	1. 学内の会議 2. FSO ニュースレター 3. その他（具体的に記述願います）	41 11 19	- - -
Q7	金沢大学には FSO 所属型と部局所属型の二つのテニユア・トラック制度が運用されていることをご存知ですか？	1. 知っている	32	43.2
		2. 知らない	42	56.8
Q8	部局所属型テニユア・トラック制度の概要をご存知ですか？	1. 知っている 2. 知らない	33 41	44.6 55.4
Q9	テニユア・トラック制度に賛成ですか、反対ですか？	1. 賛成 2. 反対 3. どちらともいえない（わからない）	25 16 33	33.8 21.6 44.6
Q10	テニユア・トラック制度の導入に反対である理由は何ですか？次の中からお選びください（複数回答可）	1. 従来の選考・採用方法で十分である	8	-
		2. 他の教員の負担が増加する	5	-
		3. 研究費や業務分担で優遇する必要性が感じられない（不公平である）	3	-
		4. 研究重視で教育がおろそかになりかねない	6	-
		5. 他の教員と比べて経験・年齢のバランスを欠く	2	-
		6. テニユア・トラック終了後、昇任が離職の選択肢しかなく、柔軟性を欠く	15	-
		7. テニユア・トラック期間が短い	2	-
		8. パーマネントのポストに勝る魅力がない	9	-
		9. 現行の研究室における研究体制を維持できなくなる	7	-
		10. その他（具体的に記述願います）	4	-
Q11	部局の会議（系など）で部局所属型テニユア・トラック制度の導入について議論したことがありますか？	1. ある	18	-
		2. ない	52	-
Q12	テニユア・トラック制度を導入するために必要なもの、改善すべき点等、ご意見・ご提案があればご記入ください（自由記述）。			

人材について

- パーマネントのポストに勝る魅力がない。パーマネントなら公募に応募するが、任期付きでは応募したくないという人は多い→優秀な人が集まらないのでは
- テニユアトラックという不安な環境のなかで、目先の利益だけ追い続けるような研究者が増えるのでは
- 教授だらけになってしまうのではないかな？
- 研究費を多くつけて育てても、結局他大学へ移ってしまうのでは

テニユアトラック期間中について

- 研究重視で教育がおろそかになりかねない
- 教育や教務関係の仕事しながら、短期間で研究成果を求められても難しい
- プレッシャーにより安定して研究できない

審査後について

- テニユアを獲得できなかった場合はどうするのか？
- テニユアトラック終了後、昇任か離職の選択肢しかなく、柔軟性を欠く

- テニユアトラック教員への支援体制等について
- テニユアトラック助教については、独立して研究し、5年以内に成果を出すには現行のままではあまりに研究費が少なく、共通機器体制やラボスペースに不足がある。
- 期間が短いので、特殊な機器の製作や購入ができない

部局への影響

- テニユアポストが減ると他の教員の負担が増加し、部局が疲弊する。テニユア・トラック制度の導入には、研究者人員の純増（新ポストの設立）の上にか成り立たない
- 現行の研究室における研究体制を維持できなくなる

多分野への導入に関して

- 分野により業績評価に違いがある場合、どのようにバランスをとるのか不明確

人事システムについて

- 5年も准教授ポストを空けていられない。人事計画が立てられない
- 一旦退職しないといけないので、生涯賃金で不利になる

アンケート回答者からの提案

審査について

- 本人も周囲も納税者も納得出来るテニユア審査の基準を、採用時から明確にすること
- テニユアを判定する場合には、(1) 教育、(2) 研究（国外のピアレビューを取り入れる）、(3) 社会性、の3つの観点から審査すべきである

テニユアトラック教員への支援体制について

- 共通機器を整備し大学が整備費を負担し、管理専任の技術員・教員一人を配置する
- ラボスペースの確保・改装や事務補佐員などの支援体制をきちんと作るべき
- 業績がなくなった場合に降格人事（任期なしの助教など）の制度を作るべき

人事システムについて

- テニユアトラック制度を導入するのであれば、全大学において全教員に適用した方がよい
- 任期制やテニユアトラックを選んだほうが、待遇がいいような制度を作る

教育

- テニユアトラック教員には、学生を指導できるようにさせる
- 現状の教育を実施するのに必要な人員を確保した後に、研究に特化した教員を採用するのであればよい

その他

- 国から言われたからやるのではなく、金沢大学として必要だから導入するという形を見せてほしい
- 若手を育てるため、学内でも若手を中心となった研究発表会を、学会形式で年に1回くらいやったら良いと思う

テニユア・トラック制度を導入して初めて全学の意見を伺うアンケートを実施しました。

アンケートの結果を見ると、金沢大学にテニユア・トラック制度が導入されていることは比較的認知されていますが、二つのタイプが導入されていることはそれほど認知されていないようです。特に、部局所属型 TT 制度についての周知がなされていないという結果が出ました。

導入反対の理由として挙げられている理由のうち最も多かった意見は、「テニユア・トラック終了後、昇任か離職の選択肢しかなく、柔軟性を欠く」というものでした。これは今後導入を進める上で非常に重要なポイントになるかと思えます。部局所属型の制度設計については、この点を十分踏まえて検討を進める予定です。その次に多かった反対の理由は「パーマネントのポストに勝る魅力がない」というものでしたが、これを選んで

いた方は概ね教授の方が多くという特長がありました。

自由記述でもたくさんの意見が寄せられました。導入賛成という立場の方では、特に、審査基準や評価の明確化やサポート体制の充実が必要不可欠という意見が多数見受けられました。一方、反対の立場の方からは周囲の負担増や短期間であることを危惧する意見が多く寄せられました。どちらでもないという立場での意見は、制度として導入するためにはまだ課題が多いという意見が多く、評価や部局との関係をきちんと整理した上で導入すべきという意見や、仮に金沢大学で導入しても全国で導入されない限り、お金をつぎ込んで育成しても育った頃に他大学へ移ってしまうという、という意見がありました。

どのような形で進めるのが適切か、現在の運用状況などを踏まえ、今後更なる検討を重ねていく予定です。